

3

中間尿から分離した *Haemophilus influenzae* の 1 例

◎山田 真以¹⁾、馬場 康次¹⁾、辻 智美¹⁾、福田 峻¹⁾、樋口 武史¹⁾
彦根市立病院¹⁾

【はじめに】*Haemophilus influenzae*(以下、*H. influenzae*)は上気道に常在し、喀痰や咽頭分泌物、しばしば髄液から分離されるが、泌尿器系由来の材料から分離されることは極めて稀である。今回、我々は中間尿から *H. influenzae* を分離したので報告する。【症例】30歳、男性。発熱(38°C)、食欲減退、左下腹部痛を主訴に当院泌尿器科受診。左水腎症を認め、腎盂腎炎疑いで中間尿が提出された。患者は、膀胱尿管逆流症の既往があり、2年前にも尿路感染症を発症していた。【血液検査所見】白血球：238.9×10⁴/mL、CRP：5.92mg/dL【細菌検査所見】塗抹結果にて白血球に貪食されたグラム陰性球桿菌を多数認めた。泌尿器系由来の材料であったため、ヒツジ血液/BTB分画培地(日本BD)にて35°C24時間培養したところ、ヒツジ血液寒天培地にのみ微小なコロニーが発育し、VITEK MS(バイオメリュー)にて *H. influenzae* 99.9%と同定された。確認のため、チョコレート寒天培地(日本BD)にコロニーを分離後、36°C24時間CO₂培養を行ったところ、灰白色の2mm程度のコロニーが発育し、同時に行っていたXVマルチディスク(栄研化

学)でも、XV因子要求性を認め、*H. influenzae* と確認できた。【考察】既報では、非常に稀ではあるが、尿中の *H. influenzae* は先天性に尿路系の異常を持つ患者の尿路感染症の原因菌として報告例がある。通常、初期培養にて泌尿・生殖器系の材料にチョコレート寒天培地を使用することはほとんどないが、塗抹所見にてグラム陰性球桿菌を認めた場合は *H. influenzae* の可能性も考え、チョコレート寒天培地を追加しておくべきである。今回は、ヒツジ血液寒天培地に微小ながらも発育が認められたことと、質量分析装置を使用したことで同定が可能であった。質量分析装置は短時間で菌名同定に有用であるが、細菌検査初心者にとっては質量分析装置を利用した菌名同定に頼りすぎってしまうという短所もある。本症例では塗抹所見から菌を推測することの重要性を痛感する機会となり、基本的な同定技術を積極的に身に付けていきたいと考える。連絡先：0749-22-6050(内線1730)